

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	音楽基礎4（音楽理論）	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	金澤法皇、末光篤	実務経験の有無・職種	有・音楽講師、理論書出版・ミュージシャン		
学習目的					
音楽理論の基礎をしっかりと身につける。記号の書き方、音符の長さなどの基本から、スケール、音程までは最低でもしっかりと理解し、楽譜をきっちりと読めるようにする。また、自身の曲を書く学生は、自身の曲の譜面を書けるようにする。					
到達目標					
様々な基本用語を覚え、実際の実習で活かせるようにする。また、様々な手法を駆使して、自身のオリジナル楽曲にいかせるようにする。既存曲も自身で楽曲分析を出来るようにする。					
教育方法等					
授業概要	<p>なるべく少人数制のグループで丁寧に授業を進めていく。授業開始には必ず復習の小テストを行い、何度も繰り返し行う事によって、徹底して理解させる。理論の理解を深め定着させていく。</p>				
注意点	<p>理解度の高い学生と、そうでない学生との差が大きいため、上手くそれぞれに合わせた授業内容で進めていく。理解できていない学生には別途、個人レッスンをおこない、とりこぼしのないように進めていく。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	セカンダリー復習1	セカンダリーの使用方法を楽曲分析にて理解させる			
2回	セカンダリー実習2	実際の学生の曲にセカンダリーを入れてみる			
3回	セカンダリーの効果	在る場合とない場合との違いを考察しながら、入れるポイントを理解する(2-5進行等)			
4回	クリシェについて	クリシェおよびその使用方法を分析にて理解させる			
5回	カノン進行	既存曲を用いてカノン進行を理解する			
6回	J-POP進行	J-POPに良く用いられるいくつかのコードパターンを実際に使ってみる			
7回	チャーチモード	モードについての理解、その使用方法等について理解する			
8回	テスト	後期試験を見据えた中間テストで理解を含める			
9回	アナライズ	様々なコードパターンを含む学校をアナライズする			
10回	学生が選曲するアナライズ	学生から公募した楽曲をアナライズする			
11回	アポイドノートについて	アポイドを用いたいくつかの例を挙げてその解説を行う			
12回	作曲	8小節のケーデンス内でセカンダリーを用いた作曲をする			
13回	作曲(コードパターン)	8小節のケーデンス内でクリシェ、カノン進行を用いた作曲をする			
14回	発表	作曲したものを授業内で発表する			
15回	後期まとめ	後期テスト			